

## 3.11 震災に関するテレビ映像資料アーカイヴをめぐって —アーカイヴの持続可能性：Vanderbilt Television News Archive の教訓—

大井 眞二\*

### はじめに

本稿は、2014年3月7日に開催された日本大学法学部新聞学研究所シンポジウム「3.11 震災に関するテレビ映像資料アーカイヴをめぐって」において筆者が行った「日大版東日本大震災 TV 映像記録アーカイヴ化事業」に関する基調報告をもとに大幅に修正してまとめた論稿である。

はじめに以下のことをお断りしておきたい。筆者の基調報告における「日大版アーカイヴ化事業」の開始に関わる詳細は、内容の性格に鑑み本誌の事業報告「映像情報のカテゴリー化をめぐる研究」に譲ることにし、「放送関連資料の様々なアーカイヴ計画」については本号特集の米倉律論文、「映像著作権」及び「映像著作権のフェアユース」に関する議論は、松嶋隆弘論文、早乙女宜宏論文において、それぞれ専門の立場から十分論じられているので、それらをご参照いただくことにして、本稿では、「Vanderbilt Television News Archive (VTNA) の教訓」について論じることにしたい。

### 1. Vanderbilt Television News Archive (VTNA) の概要

#### モデル／範例としての VTNA

初めに TV 映像のアーカイヴの重要性に関する警句とでもいふべきいくつかの引用を試みたい。

議会図書館の館長であった Daniel Boorstin は、TV がアメリカの生活と文化を支配するようになったことを認めて、「TV 視聴は、生命それ自体にのみに匹敵する中毒となった」（1981: 256）と述べた。

放送史家の Eric Barnouw は、その当時読み捨てられるのが当たり前の大衆的読み物 Dime novel が議会図書館の貴重書室に収蔵されていることを指摘した上で、TV 映像アーカイヴの現状を評して「情報の歴史家が、つかの間のものでなくわれわれのもっと「重要な」情報を伝える放送番組から情報を収集せずに、誰が何を語ることができるだろうか」（1983: xii）と述べた。

議会図書館は、1976年 TV のナショナル・アーカイヴの設立を規定する法律について、「アメリカ国民の遺産である TV 番組の恒久的な記録をつくり、かつ著作権侵害を惹起することなく歴史家や学者にこうした番組のアクセスを提供すること<sup>(1)</sup>」をその目的として謳った。

メディアの専門誌 Editor & Publisher は、「TV ニュースは、『記録のジャーナリズム』ではない、何故ならば新聞のようにバックファイルがないからだ。しかし、Nashville の Vanderbilt 大のアーキヴィストは、正確にはそれは正しくないと言う」（Bowen 1998: 30）

---

\*おおい しんじ 日本大学法学部新聞学科 教授

日大版 TV 映像アーカイヴ化プロジェクトを構想した段階で、われわれの計画にモデルや範例となる事業の一つとして、われわれは 1968 年開始以来長い歴史と実績をもつ米国の Vanderbilt 大学 Television News Archive に注目した。この進行中のコレクションは、様々な TV 番組の中でも「ニュース」を対象にしたもので、われわれのようなテーマやトピックを対象とするプロジェクトと性格を異にするものであったが、同 Archive はその映像資料を使って非常に多種多様な研究を生み出してきた実績を持っていた。<sup>(2)</sup>

われわれのプロジェクトは、記録蓄積した大震災の TV 映像資料の、長期にわたる研究や教育の利用を想定しているのだから、アーカイヴの持続可能性という観点を一つとっても、VTNA はモデルや範例の十分な価値をもつものと考えられたのである。そこで本稿では、TV 映像アーカイヴ化計画にとって、現状では実現のための様々な条件の厳しい制約のもとにおかれている日本のコンテクストを踏まえ、プロジェクトの持続可能性に論点を絞って検討することにしたい。

### VTNA の実際

Vanderbilt Television News Archive (VTNA) は、Vanderbilt 大学及び同大図書館を母体として、主として米国の 5 大 TV ネットワークの定時のニュース放送を記録し、アーカイヴし続けている、進行中のコレクションである。このアーカイヴという名の TV ニュース放送の貴重なコレクションは、研究者や学者だけでなく広く一般市民に対して、TV ニュース映像資料への可能な限りもっとも広範なアクセスを提供すること、かつそれらを現代史の史料として将来の世代のために保存することをその使命としている (<http://tvnews.vanderbilt.edu/>)。従って、VTNA の利用希望者は、貸出サービス (DVD と VHS) を通じて過去に放送されたニュース番組にアクセスすることができ、VTNA と契約するジャーナリズムやコミュニケーションのスクールをはじめとする研究教育機関は、一定の条件の下でストリーミング映像を通じてニュースにアクセスすることができる。

はじめ VTNA は、3 大ネットワーク (ABC、CBS 及び NBC) の毎日の夕方のニュース番組を記録することを目的とした。時とともに収集・録画の対象は公共放送や CATV を含むようになった。VTNA は 1989 年から週末の Nightline (ABC) を、同じ年に CNN の代表的な夕方のニュース番組を記録保存し始めた (Lynch 1996: 81)。また 2004 年から FOX ニュースから 1 時間、定時のニュースを記録保存するようになった。加えて数十年にわたって、VTNA は米大統領の演説や記者会見、あるいは大統領選挙のディベートや選挙関連のイベント、選挙投開票日の特別番組、その他の政治的に重要なイベントの TV 放送を記録してきた。毎日記録される時間量は特に決まっておらず、夕方のニュース番組については通常最低 3.5 時間程度になる。他方で VTNA の特別番組の記録は、2013 年については 270 時間となった。これらの映像記録は保存しコレクションに加えるため記録されている。VTNA はまた、コレクションに加えられないが、Vanderbilt 大キャンパスで使われ最終的にリサイクルされる地方的な性格の他の番組も記録している。こうして VTNA は、毎日夕方の ABC、CBS、CNN、FOX 及び NBC のニュース番組を記録し、また同じ 5 大ネットワークの特別番組、あるいは MSNBC、PBS、CNBC の特別番組を記録し、そしてそれらをアーカイヴしている。VTNA はまた、随時 Univision、HLN 及び重要なナショナルなニュース、特に大統領関連のニュースを含んでいる場合には、その他の番組も記録することになっている。

2014 年 7 月に退任した Vanderbilt 大学図書館長の Connie Vinita Dowell は、VTNA を同大学の

貴重な特別コレクションと呼んだ。しかしVTNAは以前からこうした扱いを受けてきた訳でもなければ、高い評価を受けていたわけでもなかった。VTNAはVanderbilt大学の宣伝広告塔でもなければ、同大図書館の戦略的計画の一部でもなかったのである。VTNAは、ある一人のVanderbilt同窓生の強力なイニシアティブで異例のスピードでつくられたのであり、VTNAの事例研究は、こうした先駆的事業の発起と成功にとって、個人の確信と不屈の精神、そして何よりも組織の決断がいかに重要かを例証する。

## 2. SimpsonとVTNAの初心

メトロポリタン生命保険会社の地区マネージャーで同大の同窓生のPaul Simpsonは、かねてから全国のTVネットワーク放送の、とりわけニュース報道の、いわゆる「リベラルバイアス」について関心や懸念を抱いていた。Simpsonは以前放送されたあるニュース放送番組を覚えており、そこではハーヴァード大学の心理学者Timothy Learyが心理療法の一手法として、ドラッグの使用を奨励したと記憶していた。彼は、機会があれば、それを確かめるために実際の番組を視聴したいと思っていた(Simpson 1995: 7)。1968年仕事でニューヨークに出張した時、仕事の時間を割いて放送会社の本社を訪れ、その番組の視聴を求めたのである。Simpsonは、録画テープは全く保存されておらず、テープが高価なためその後の録画のため再利用されていることを知って驚愕した(1995: 8)。彼は他の放送会社も尋ねたが、その慣行は他でも同じであることを知っただけであった。Simpsonは、歴史は残されねばならない、記録されねばならないと考えていたし、また多くの費用を使って新聞がマイクロ化され図書館で利用されていることを知っていた。1960年代末までにアメリカの8割の世帯がTVを所有し(Emery and Emery 1984: 506)、大半のアメリカ人が1960年代末にはTV放送からニュースを得るようになっていたので、Simpsonは、図書館もまたこれらの放送を収集し、保存する措置をとっているのを当然と思った。しかしVanderbilt大図書館を含め、主要な研究図書館はそうした観点からTV放送を考えていなかったのである。

もちろん、米国の初期のTV放送が全く記録されていなかったわけではなかった。しかし初期の無声映画と同じことがTVでも繰り返されることになり、またTV放送映像資料の喪失は無声映画以上に深刻であった。TVは、もともとライブで放送されるように提示され、その記録・録画にはTVの初期に利用できない付加的な技術が必要であった。TVの録画用に使われたのはキネスコープ(Kinescope)であり、TV受像機の前にセットされたカメラを通じてTV映像を記録するフィルムであり、1947年になって初めて利用されるようになった。しかしキネスコープが利用される場合でも、保存用に記録されるのではなく、録画されて数時間後に再生するため使われたのであった(Martin 2005)。1950年代にビデオテープが生まれると、キネスコープよりもコストが高かったが、再利用できるため徐々に録画の主流となっていった。しかし、ビデオテープも保存用の利用ではなく、むしろ繰り返しの再利用であったから、Washington Postによれば(1975年4月12日号、A10)、1948年以来意識的に保存維持されていたのは、1970年代になっても、ネットワークの全放送番組のうちの「5%に過ぎなかった」のである。

Simpsonの見解では、これは耐えられない状況であった。すなわち、歴史は記憶から薄れてしまい、特定の日に報道されたことを確かめる術が全くないことになる。行動を起こそうとして、Simpsonは同大の学長Alexander Heardに面会し、現代史を保存する活動として、ニュース放送

を記録する責任を同大が引き受けるよう学長に陳情した。幸いなことに学長 Heard は政治学者であり、政治過程において TV が果たす重要な役割を認識しており、Simpson の陳情内容に共感した。同大の学部の研究や大学連合図書館 (the Joint University Libraries=Vanderbilt 大、Peabody カレッジ、Scarritt カレッジの図書館コンソーシアム) の計画にもこれに関わるようなものもなかった。そこで学長は連合図書館において TV 放送の記録と保存に関するパイロットプロジェクトを立ち上げ、その実証実験を試みたのである (Simpson 1995: 20)。

### 3. 図書館とテレビジョンアーカイヴ

プロジェクトを切望していた Paul Simpson は、喜んでプロジェクト実施のための資金を提供した。3か月のパイロットプロジェクトとして TV 放送の映像が 1968 年 8 月 5 日に初めて記録された。記念すべき 8 月 5 日は奇しくも、共和党全国大会の日だった (Simpson 1995: 21)。そして VTNA の TV ニュース放送の記録はその時以来、毎日連綿と続けられてきた。Paul Simpson は初期コストの一部に資金を出したが、すぐにそれは個人が支えることのできない事業活動であることを理解した。当時の同大図書館長 Frank Grisham は Simpson と一緒になって、地方の実業界に向けたそのプロジェクトのための資金集めに奔走した。Simpson の保険会社は若干の資金を寄贈し、Simpson を慕う同保険会社の 6 人のビジネスマンは資金を出したが、大抵は千ドル以下だった。他方で、Grisham はプロジェクトを地域のロータリークラブの話題にのせ、プロジェクトに関わるよう説いた。しかしこのロータリークラブからの基金は非常に小規模だった。Simpson と Grisham の二人は至る所で、新聞が図書館でマイクロ化されているのとまさに同様に、テレビ放送も録画テープで保存されねばならないことを訴えた。

VTNA の制度的コンテキストは重要であった。TV ニュース番組のアーカイヴは Vanderbilt 大でつくられたが、それは連合図書館に収容され、かつそのサービスに依存した。連合図書館は、その創設の 1935/36 年にあって、技術革新のモデルであった (Ithaka S + R 2013)。

大学図書館のコンソーシアム制度はその集権化されたシステムを誇ったが、連合図書館のメンバー大学の学長はこの新しいアーカイヴに資金を拠出するのを渋った。図書館から野心的な起業的事業からあまり生まれなかったことを例証するように、アーカイヴ構想を支持しなかったのである。しかし結果的に、主として Vanderbilt 大学と連合図書館が集めることができた民間の基金によって資金が拠出されることになったのである。

連合図書館との提携は不可欠であった。このプロジェクトにとってスペースは重要であり、機材も同じであった。大学連合図書館は建物の片隅の空きスペースに録画ステーションを設置した。プロジェクトの初期、Simpson と Grisham は重要なスタッフであり、彼らはレンタル機材を使って、Simpson と図書館の友人によって供給されたテープで TV 放送映像を録画した。プロジェクトが十分な基礎を持たない時、学生が機材を動かし、院生が録画資料を利用者にとって必須の抄録と索引を作成した。Vanderbilt 大学学長 Heard はこのアーカイヴを監督する委員会を任命し、大学経営首脳、司書、政治学者からなるメンバーを運営委員会に指名した (Ithaka S+R 2013)。Simpson はプロジェクトの無給のコンサルタントとして残った。

VTNA はプロジェクトの初めから、大学内の強力な支援者をもつことができた。Vanderbilt 大図書館長 Grisham は、特にプロジェクトの持続可能性に関心を寄せ、プロジェクトを擁護するだ

けでなく積極的にサポートした。Vanderbilt 大学からプロジェクトの十分な資金が得られず、また研究教育機関のライセンス契約会員を十分に確保できない数年の間、彼は図書館のファンドからプロジェクトを助成した。彼の後を継いで図書館長に任命された同大の経済学者 Malcolm Getz は、1984 年から 1995 年の間その任にあった。経済学者として Getz は VTNA の経済的現実には厳しい眼を向けた。特に湾岸戦争について CNN の 24 時間のカバレッジを記録する決定がなされた時、彼の懸念は裏書されることになった。実際、湾岸戦争はプロジェクトの予算を急激に使い尽くしてしまったのである (Lynch 1997: 503)。Getz はニュースアーカイブのため、図書館の金を流出し続けることを懸念したが、にもかかわらず VTNA の重要性を認識していた。彼は、そこで VTNA を図書館の活動から PA (Public Affairs) 局へと移管することにした (Ithaka S+R 2013)。

1990 年代 Vanderbilt 大の法律顧問であった Jeff Carr も重要な役割を果たした。彼は著作権をめぐる TV ネットワークとの法律闘争の間、そのプロジェクトに深い関心を持ち、Vanderbilt の PA 局の事業としてアーカイブの責任を引き受け、他方でこの間プロジェクトは大学からの助成を受け続けた。Paul Gherman が図書館の司書に任命されたとき、彼はアーカイブのための組織構造を再考し、2002 年にそれを再び図書館に戻した。Connie Dowell が 2011 年に図書館長に任命されると、彼女は、VTNA がその潜在的可能性に実現するためにも、Vanderbilt 大学の図書館活動に完全に統合される必要があると判断し、そのために必要な決定を下した。彼女は、VTNA 組織を連合図書館の副部長 Joseph Combs の職掌に委ねることにした。彼は組織運営の、情報技術の専門家であり、アーカイブを同大図書館に統合するのに非常に大きな貢献をしたのである (Ithaka S+R 2013)。

#### 4. VTNA と外部資金の重要性

Dowell と Combs は図書館活動における特別な優先順位を VTNA に与え、資金調達のためアーカイブの宣伝役を積極的に果たした。その後数年間、研究教育機関のライセンス契約数は安定することになったので、二人はアーカイブの将来のための戦略的プランニングにとりかかった。VTNA プロジェクトの初期の資金調達は、助成金や補助金の形で実現し、それによって必要な機材の調達が可能になった。またそれらの資金は、その後アーカイブの基本要素を構築するために使われた。こうした活動について、Ithaka S + R の VTNA に関する事例研究によると、以下のようになる。

(1) 1970 年、ピッツバーグのカーネギー財団は、プロジェクトのための機材購入とスタッフ雇用に資金を提供した。(2) 1973 年フォード財団の助成によって、それぞれの番組の抄録と索引を開発することができた。多くの点で、索引付与と抄録作成は、アーカイブを単なる録画の技術ではなく、知的なプロジェクトにした。1972 年から 1995 年印刷物の形で、月刊の抄録と索引が発行された。(3) 1978 年全米人文科学基金は、コレクションのコピーを、Ampex の録画機で使われる 1 インチのオープンリールから、4 分の 3 インチのカセットに移すための資金、22 万 5 千ドルを助成した。1989 年全米人文科学基金は第二の助成を行い、それは新しいテープに移し、かつ 800 時間の録画を保存する 1 年のプロジェクトの資金となった。(4) 1992 年、フォード財団は第二の助成を行い、過去 25 年の抄録と索引作成活動をもとにインターネットのデータベースを作る事業に助成金を付与した (Lynch 1996: 82)。(5) 2002 年、アメリカ国立科学財団は、ニュース内容を記録

し、保存し、提供する代替技術を研究するため、VTNA に基金を補助した。

これらすべての助成・補助金は VTNA の技術的発展のために重要であり、スタッフの付加的な作業に役立った。しかしながら、VTNA の基本活動ともいえるべき日常業務には、こうした資金提供は全くなかったのである (Ithaka S + R 2013)。このことは次に述べるプロジェクトの持続可能性にとって重要な意味を持つことになるのである (Ithaka S+R & ARL 2013)。

### 5. アーカイヴ化プロジェクト持続可能性のための戦略

Vanderbilt TV News Archive は事業を開始して以来 4 万時間以上のニュース放送を保存し、そのことによって VTNA は世界におけるアメリカのニュース放送の最大のコレクションとなった。VTNA の約半世紀わたる事業の継続はまさに驚嘆に値するが、このアーカイヴ事業は常に財政的な問題を抱えてきた。財団など外部機関からの助成 / 補助金、研究教育機関のライセンス契約、有料の映像資料の貸し出しサービス、議会図書館の事業を肩代わりする業務提携契約、を含む広範囲にわたる持続可能性のための戦略を発展させてきた。

#### VTNA の多様な財源

初期の時代、VTNA の創立者は非常に起業家精神に富み、同大内外に新しい支援者を求めようとした。VTNA プロジェクトが続くと、プロジェクトの中のアーカイヴ構築を対象とする助成 / 補助金がアーカイヴの成長に役立った。しかし、最新の技術を必要とする日常的作業や、労働集約的な仕事の流れに関する資金を調達するのは難しかった。

2013 年 VTNA を運営する活動予算は年間 50 万ドルを超え、そして管理運営や法的及び技術的サポートのコストは、以下の 4 つの主たる財源からの資金で賄われた。すなわち、VTNA 活動予算の 38% は研究教育機関のライセンス契約収入 (会員費)、14% は議会図書館の業務提携収入、21% は貸し出しサービスの手数料から得られた。Vanderbilt 大はおよそ年間コストの 27% を補助し、部長、副部長の俸給の一部、開発活動の支援、技術サポート及び法的助言に使用された。加えて、Vanderbilt 大は、10 年以上の間、200 万ドルを超える VTNA の赤字を補てんする助成を行ってきた (Ithaka S+R 2013)。さらに図書館長の VTNA を同大の最も重要な特別コレクションに指定する選択は、VTNA の活動に必要とされる組織上の、予算上の注目に VTNA に与えることに役立った。その一例は 2012 年 11 月の、地域 Emmy 賞の受賞であり、それは VTNA の声価をさらに上げることになったのである (<http://tvnews.vanderbilt.edu>)。

#### 財源獲得をめぐる活動

確信と情熱から一つの構想が生まれる時、注意深いかつ戦略的なプランニングは後回しになりがちである。VTNA は初め、同大学あるいは図書館の優先施策ではなかった。Simpson の確信と情熱は非常に強力であったので、それに押されて Vanderbilt 大学はアーカイヴ構築とネットワークニュース放送の保存の決定をしたのである。

初めから、Simpson はこのプロジェクトがナショナルな重要性を持ち、議会図書館によってのみ引き受けられるべき事業と信じた。Vanderbilt 大はその構想の実証実験を終え、Simpson は当時議会図書館の司書であった Quincy Mumford に面会を求め、Vanderbilt で進行中の VTNA 活動の詳細を説明し、いずれかの時点で議会図書館が TV 映像情報の記録・保存の活動の責任を負うべきことの説得を試みた。Vanderbilt 大の首脳と Simpson はその重要性がためにプロジェクトを始

めたが、彼らは初めから議会図書館から運営や財政のコミットメントを得ることを期待してきたのである (Ithaka S+R 2013)。

VTNA は初めから持続可能性に苦闘しながら活動を続けてきた。そして今や VTNA は同大図書館の完全に統合された一部と考えられ、他方で VTNA は Vanderbilt 大から自立するため、独立予算と委任を受けていた。

Vanderbilt 大図書館は様々な方法で持続可能性の確保に努めてきた。初期に、VTNA は公私の様々な財団や基金の助成や補助、あるいは慈善団体の寄付などに依存した。VTNA は特別のプロジェクトを構想するたびに財団の支援を求め続けた。例えばビデオテープをデジタル記録に再フォーマットする特別プロジェクトは、これらの支援なくしてその実行は覚束ないものであった。

### 研究教育機関の利用ライセンス

初期の時代から、VTNA の財政的戦略は図書館コミュニティに予約購読を売ることであり、初めは編集した索引と抄録を売った。2002 年、Vanderbilt 大学図書館は、研究教育機関向けのライセンス契約のモデルを導入した。現在、研究教育機関の規模に基づき、年間のライセンス費を払う約 117 の研究教育機関が存在する。年間の費用は 1000 ドルから最も高い教育カテゴリーで 3500 ドル、それは研究教育機関のフルタイム当量に基づいている。契約機関数はここ 10 年の間比較的安定している。ライセンス契約機関は、デジタルコンテンツを自キャンパスの教員や学生にストリーミングする権利を与えられているが、それは契約機関のみを対象としており、個人の利用者はこのサービスを利用することはできない。これまで、NBC と CNN だけがそのコンテンツの契約機関へのストリーミングを許可している。

### 貸し出しサービス

過去 12 か月で、VTNA は約 700 件の貸し出しサービスを行った。貸し出し料金は、編集に必要な時間量次第で大きく異なるが、貸し出しからの平均的な年間収入は約 18 万ドルである。貸し出し収入はここ数年減少しているが、一貫して減少している訳ではない。貸し出しサービスは二通りに分かれ、デュプリケート・サービスは、特定の日時の当該番組全体をダビングした記録媒体を貸し出すもので、コンパイル・サービスは、異なるニュース番組を横断してユーザの指定部分を切りだしてまとめて編集して貸し出すサービスで、当然時間も費用も前者よりもかかる。

VTNA は、貸し出し請求を受け、処理する作業について、ウェブベースのインターフェースの開発を試み、ユーザの貸し出し請求をより簡単にし、さらに処理をもっとシームレスにするインターフェースを開発中であり、その一部は実現している。スタッフの 1 人は貸し出し請求に専念し、他のスタッフは必要な時に作業を手伝う。請求者のプライバシーを守るため、VTNA は貸し出し請求するユーザのタイプについてのデータを集めていないが、請求目的について、研究か、教育かのデータを求めている。因みに Google Scholar のクイックサーチは、VTNA を引用または言及する学術文献を約 1000 リストしている。VTNA は、将来のための計画を模索しており、少なくとも学者、研究者の貸し出しサービスの利用率や利用実態は、今後を考えるうえで重要なデータとなるだろう。

## 6. VTNA の持続可能性

研究教育機関がライセンス契約を更新するかどうかは、VTNA へのユーザの関心を占う重要な

テストであると言えるだろう。しかし、結論から言うと、それに関する組織的な調査は行われていない。主要な放送ニュース組織との関係は依然として緊張し、時として不安定である。そのこともあってVTNAは利用データを積極的に公表しようとはしてはいない。研究教育機関のライセンス契約はここ数年引き続き安定しているが、Vanderbiltはそれだけでなく個人研究者の利用増加を期待している。学者や研究者が自分の研究に映像資料をどのように使うかは、十分把握されていない領域だが、VTNAはこの資源の利用価値をプロモートするために、これらの集団の調査を行う必要がある（Ithaka S+R & ARL 2013）。

このことと関連するが、VTNAの価値評価を高めるために、VTNAはマーケティング活動を重視している。マーケティングの仕事は、関連する重要な会議に出席し、VTNAのサービスを学界や図書館集団に販売促進することである。他の販促活動として、ウェブからのサービスにトライアルを提供すること、主要な検索エンジンに抄録をもっとアクセスし易いようにすること、といったことが行われている。

### VTNAと議会図書館の関係

先に、50万ドルを超える年間活動予算（2013年）のうちの14%は、議会図書館の業務提携収入から得られると書いた。つまり、VTNAは議会図書館に代わって主要なTVネットワークのニュース番組を記録保存し、議会図書館はVTNAからその映像資料の提供を受けているのである。

議会図書館とVTNAの関係は、1976年の著作権法改正過程<sup>(3)</sup>の間、もっと切迫した状況で浮上した。1970年代半ば、著作権登録官Barbara Ringerは、TV番組が議会図書館に保存されていない現状を問題とし、著作権改正論議にTVアーカイヴ保存センター設立を求めるAmerican Television Recording Actの立法案を絡める主張を展開した。当時3大ニュース放送事業者は、著作権登録のためそのコンテンツを議会図書館に送っていなかったのである。結果的にTV・ラジオ・アーカイヴ法は成立し、1976年の著作権改正法は、議会図書館予算によるTVニュースを記録・保存を認めた。当時著作権法改正で重要な役割を果たしたテネシー州上院議員Howard Bakerは、VTNAに例外を作るRingerとの合意を作り上げ、VTNAはその活動を続けることが認められたのである（Ithaka S+R 2013）。いうまでもなく、この改正著作権法は、著作権保護を強化したが、他方でフェアユースの概念を導入することで、公共財ともいえるべきTV放送映像の利用をより容易にした。

議会図書館は、連邦議会によって与えられた項目予算を使って、ニュース報道のテープ収録に備える機器を購入したが、支出の多くは記録技術者の雇用に費やされた。他方で、議会図書館においてTVが付加された部門Motion Picture, Broadcast, and Recorded Sound Divisionの焦点は、映画保存の膨大な課題に向けられたので、議会図書館がTV保存のための新しい、非常に大きな責任を負うのは事実上不可能であった。こうして、VTNAは、議会図書館に代わってニュース放送を記録・保存し、その録画のコピーを保存目的のため議会図書館に送る、という両者の提携契約が生まれたのである（Ithaka S+R 2013）。

### 7. VTNAの成功の要因と教訓

博物館・図書館の特別デジタルコレクションの持続可能性を対象としたIthaka S+R事例研究は、VTNAの成功の主たる要因を分析して、重大な使命感、キャンパスからの支援、スタッフの訓練、



VTNA の価値を引き出すこと、の四つを指摘している。以下それぞれ検討してみよう。<sup>(4)</sup>

Vanderbilt 大学が VTNA の試みに乗り出したとき、20 世紀のドキュメンタリーたる TV の記録、保存は国家的な事業であり、最終的にこの役割は議会図書館によって引き受けられるだろうと考えていた。しかしすでに述べたように、いくつかの政治的、技術的及び予算的理由で、その移行は起こらなかった。しかし議会図書館も Vanderbilt も、VTNA の果たすべき使命は重要と認識していたので、VTNA の活動に業務提携や資金提供をもって支えてきたのである。

VTNA は 1968 年以来、波乱に満ちた移行期を通り抜け、何とか継続的に活動をして来た。その過程で、幸運にも重要なプレーヤーが現れ、過渡期に重要な役割を果たしてきたのである。それは、プロジェクトを最初に支持し、それに本拠を与えた連合図書館長 Frank Grisham、VTNA の乏しい活動資金を補うため外部の資金を調達しプロジェクトを先に進めた Malcom Getz、そして Paul Gherman から、法的課題を引き受け、VTNA のもっとも熱烈な支持者のひとりになった Vanderbilt の法律顧問 Jeff Carr に至るまで、キャンパスからの支援であった。中でも、VTNA の最も大きな支援は同図書館にあり、VTNA を支持する一連の図書館長はその活動を支え続け、必要な時に活動の赤字をカバーした。2014 年まで部長の任にあった Connie Vinita Dowell は、同図書館の資金獲得活動の中で最も高い優先順位の一つに VTNA を指名した。

VTNA のスタッフはコストを最低限に抑えざるを得ない活動の中で、主として徒弟制モデルを通して訓練されてきた。議会図書館が自ら複製を試みるよりも VTNA との提携を選ぶことを結論付けた理由の一つは、議会図書館が対応できないコストで VTNA が重要な使命を達成している、ということであった。

プロジェクトのプロフェッショナル化が起きたのは、1971 年このプロジェクトの常勤のディレクターが雇われた時だった。ナッシュヴィルの Methodist Publishing House 出身の James Pilkington は抄録と索引の出版に経験を持っており、彼の VTNA 構想は、ニュースを記録・保存し、それに索引をつけ、手数料と引き換えにユーザがリクエストするテープを編集することであった。1972 年 VTNA スタッフは月刊誌 Television News Index and Abstracts の編集を始めた。この刊行物は無料で図書館と関係者に送られた。これらの刊行物は 1994 年まで印刷され、この年 VTNA はコストのため印刷情報をオンラインで提供し始めた (Ithaka S+R 2013)。こうした活動は VTNA の価値を高めることになり、今日のデジタル環境では、ウェブでの索引 / 抄録付与は現在のプラットフォームへのサーチに拍車をかけることになったのである。

### まとめに代えて—進行中及び今後の課題

VTNA はこれまで、著作権法上の問題、財政運営の、プロジェクト経営の持続可能性問題に揺さぶられ、そして波状的に訪れる技術革新の波に洗われてきた。本稿のまとめにあたって、Ithaka S+R の事例研究、Ithaka S+R と研究図書館協会の共同研究、Jisc と Ithaka S+R のデジタル資源の収入モデルと資金調達に関する研究などを参考にしながら、まとめに代えて進行中及び今後の問題を検討してみたい。

#### オンライン環境のインパクト

第一に、オンラインの環境—とネットワーク優先—は VTNA のコンテンツの排他性にとって脅

威となっており、大げさに言えば将来の価値に暗雲が投げかけられている。今やニュース番組はオンラインに移り始めており、かつソーシャルメディアによって広く共有されているので、VTNAはかつてのようにユニークな資源ではなくなっている。一般的な情報を追求する場合、ソーシャルメディアのサイトで非常に広範なニュース放送を見つけることができるが、VTNAの高い価値は、その認証、確認済みのコンテンツに由来する。ソーシャルメディアのサイトで見つけたコンテンツを改変するのは簡単だが、VTNAはその録画にタイムスタンプし、認証している。歴史的研究にとって、この種の認証は非常に重要であり、図書館は典拠正しい文書資料を提供する際に重要な役割を果たしている。その間、他の組織もTVニュースにアクセスを提供する実験を行っている。例えばUCLAは、NewsScapeを始めており、これは地理空間情報と特定の地域のニュースイベントをマッチさせている。

### スタッフの人的費

必要とされるスタッフをカバーする資金調達は常に不十分であり、スタッフ調達の問題は初めからVTNAの悩みの種であった。印刷物の世界では、スタッフとして院生を容易に利用することができ、妥当な方法であるが、映像の場合彼らは仕事の流れについていく問題を抱えた。今やより多くのニュースのプロバイダがあり、ニュースも多かれ少なかれコンスタントに流通しているから、仕事量も実質的に増加したが、収入はより多くのスタッフを十分に許容するほど増加しなかった。スタッフ不足にも関わらず、VTNAは、組織のサポートを求めて民間や慈善団体の基金調達することに専心し始めており、一層潜在的ユーザのマーケティングに焦点を当てることになる。

### 販売促進とアウトリーチ

権利保有者と衝突することなく、販売とアウトリーチを増大させることは、重要な課題である。図書館首脳はますますマーケティングとアウトリーチに重視するようになり、慢性的なスタッフ不足の中にあっても、一つの職をマーケティング役にあててきた。しかし利用に関する報告とそれ故広範なアウトリーチ活動は、法的問題によって十分な展開が妨げられてきた。経験が教えるところによれば、放送会社がもし、記録されたニュース放送がいかにかにポピュラーで成功しているかを知れば、1976年 Baker 上院議員によって仲介された著作権法の例外が、新たな紛争の火種となるかもしれないのである。

本稿ではTV映像アーカイヴに関する様々な問題について、VTNAの試みに論点を絞って検討を加えてきた。その際この種のプロジェクトの持続可能性の戦略を中心に据えて考察を進めてきた。それはわれわれの「日大版アーカイヴ化」計画にとって喫緊の問題であり続けているからである。記録・アーカイヴされたTV映像資料の研究・教育のためのインターフェースについては、現在様々な検討を進めている過程にあり、機会を改めて論じることにはしたい。

### 注

- (1) Lynn Spigel (2005) は “Our TV Heritage: Television, the Archive, and the Reason for Preservation” (Janet Wasko 編 *A Companion to Television*: 81) において、アメリカのTVアーカイヴを、TV産業のPR、美術館及びツーリズム、ノスタルジー及びポストモダン型に分類し、VTNAのアーカイヴをノスタルジー型としている。

- (2) Motion Pictures & Television Reading Room, Library of Congress, <http://www.loc.gov/rr/mopic/tvcoll.html#top>
- (3) この著作権改訂の詳細な事情については、魚住真司 (2001) 「アメリカにおけるテレビニュースアーカイブの試練—「CBS 対 Vanderbilt」事件と「Baker 修正」に見るテレビニュース保存・公開への法理—」『レコード・マネジメント』No42、22～35 頁、を参照のこと。
- (4) Ithaca S + R は、他のアーカイブ化事業などへの教訓として、以下を指摘する。

**情熱的な個人が有能な擁護者を作ることができる。** 多年にわたる諸個人のサポート / 支援は VTNA の長い生命を説明する。その企ての使命感が個人に、制度的なサポートに駆り立て、私的な基金を集めるような動機付けを与える。ボランティア活動は、VTNA の成功の少なからぬ部分であった。

**より広範な制度的支援がより大きな保証 (安全) を提供する。** トップレベルのリーダーシップと支援が VTNA の成功に決定的に重要であった。VTNA の仕事を同図書館に完全に統合することへの現館長の関心は、その実行可能性を保証する。議会図書館からの収入の流れの信頼性は、毎年この活動の予算として、Vanderbilt の負担を軽減する。ある程度の予算があることを知ることは、ある程度の保証 (安全) を提供する。

**技術革新はより大きなコストをもたらし得る。** 活動のコストに喜んで資金を拠出する慈善的組織はほとんどない。助成や補助を求める時、VTNA は新しく、革新的なサービスを開発しなければならなかった。そうしたサービスの進行中のサポートは、初期の助成や補助が終わったのちの制度的な資金調達 / 獲得への、付加的な依存を作りだす。

## 引用及び参考文献

- Allen, Robert B. and Kirsten A. Johnson (2008) "Preserving Digital Local News." *The Electronic Library* 26 (3) : 387-399.
- Boorstin, Daniel (1981) "The Road to Diplopia." In Barry Cole, *Television Today: A View*, Oxford University Press.
- Barnouw, Erik (1983) "Foreword." In John E. O'Connor, *American History: American Television*, Frederick Ungar Publishing.
- Bowen, Charles (1998) "Tune in to TV Archive." *Editor & Publisher* 4 July: 30.
- Breeding, Marshall (2003) "Building a Digital Library of Television News," *Computers in Libraries* June: 47-49.
- Breeding, Marshall (2012) "From Disaster Recovery to Digital Preservation," *Computers in Libraries* May: 22-25.
- Breeding, Marshall (2014) "Ongoing Challenges in Digitalization." *Computers in Libraries*, November: 16-18.
- Compton, Margaret A. (2007) "The Archivist, the Scholar, and Access to Historic Television Materials." *Cinema Journal* 46 (3) : 129-133.
- Edy, Jill A., Scott L. Althaus, and Patricia F. Phalen (2005) "Using News Abstracts to Represent News Agendas." *Journalism and Mass Communication Quarterly* 82 (2) , 434-444.
- Emery, Edwin, and Michael Emery (1984) *Press and America*, Fifth ed., NJ: Englewood Cliffs.
- Gherman, Paul M. (2004) "The Vanderbilt Television News Archive." *Perspectives on History*, October.

- Hane, Paula J. (2002) "Vanderbilt Improves Television News Archive: Its recently Added TV-NewsSearch Offers Users s Single Searchable Database." *Information Today*, October: 29 +.
- Ithaka S + R (2013) *Vanderbilt Television News Archive*. [http://www.sr.ithaka.org/sites/default/files/reports/SR\\_Vanderbilt\\_20140129.pdf](http://www.sr.ithaka.org/sites/default/files/reports/SR_Vanderbilt_20140129.pdf)
- Ithaka S + R and the Association of Research Libraries (ARL) (2013) *Searching for Sustainability: Strategies from Eight Digitalized Special Collections*. <http://www.sr.ithaka.org/research-publications/searching-sustainability>.
- The Strategic Content Alliance (SCA) and Ithaka S + R (2014) *A Guide to the Best Revenue Model and Funding Sources for Your Digital Resources*. <http://www.sr.ithaka.org/research-publications/guide-best-revenue-models-and-funding-sources-your-digital-resources>
- Kessler, Jo Anna (1980) "Vanderbilt Television News Archive." *Georgia Archive* 8 (1) , 16-21.  
<http://www.loc.gov/rr/mopic/tvcoll.html#top>
- Lynch, John (1996) "Vanderbilt Television News Archive." *Historical Journal of Film, Radio and Television*, 16 (1) , pp.81-83.
- Lynch, John (1997) "Statement for the Public Hearing of the Library of Congress," *A Report on the Current State of American Television and Video Preservation*, Volume 5: 501-510, Washington D.D.: Library of Congress
- Murphy, William T. (1997) "Television and Video Preservation: A Report on the Current State of American Television and Video Preservation, Volume 1, " prepared for the Library of Congress, October, Washington D.C.: Government Printing Office.
- Martin, Jeff (2005) "The Dawn of Tape: Transmission Devices as Preservation Medium." *The Moving Image* 5 (1) : 45-66.
- Rouse, Sarah and Katharine Loughney (comp.) (1989) *Decades of Television: A Catalog of Television Programs Acquired by the Library of Congress*, Washington D.C. :Library of Congress.
- Simpson, Paul C. (1995) *Network Television News: Conviction, Controversy, and a Point of View*. Franklin, Tennessee, Legacy Communications.
- 今村庸一 (2012) 「映像アーカイブの現況と課題」、『メディアと情報資源』19巻1号、1～10頁。
- 魚住真司 (2001) 「アメリカにおけるテレビニュースアーカイブの試練—「CBS 対 Vanderbilt」事件と「Baker 修正」に見るテレビニュース保存・公開への法理—」『レコード・マネジメント』No42、22～35頁。
- 魚住真司 (1999) 「米国のテレビニュース資料アーカイヴズ」、『情報の科学と技術』49巻3号、119～125頁。
- 大路幹生 (2010) 「放送アーカイブの新たな動き—「公共的利用」の視点から」、『書物と映像の未来』(長尾真、遠藤薫、吉見俊哉編、岩波書店)、93—108頁。